

# 水と土の芸術祭 2015 実施計画(案)

WATER AND LAND—NIIGATA ART FESTIVAL 2015

平成26年11月

水と土の芸術祭 2015 実行委員会

## 目次

I	開催趣旨	1
II	開催概要	2
III	事業内容	4
	1 市民プロジェクト	4
	2 こどもプロジェクト	5
	3 アートプロジェクト	7
	4 シンポジウム	10
	5 食・おもてなし	12
	6 その他事業	13
	7 市内連携事業	13
	8 事業全体像	13
IV	建築と空間構成	14
V	二次交通・ツアー	16
VI	広報	17
VII	広域連携の取り組み	20
VIII	料金設定	20
IX	実施・運営体制	21
X	スケジュール	25
XI	予算	26

## I 開催趣旨

---

新潟市は越後平野の中央、日本有数の大河、信濃川と阿賀野川の河口部に位置する古くからの港町です。かつて川は氾濫を繰り返し、広大な低湿地帯を作り出していました。そこにはぬかるみに腰まで浸かる農作業があり、先人たちは不屈の精神と創造性を発揮することで生産を続けてきました。時代ごとに最先端の技術を投入し用排水を管理することで乾田化に成功、やがて日本一の米どころとして知られるようになりました。地平線まで見渡すような広大で美しい田園と湿地の名残でもある潟は、新潟市を象徴する原風景であり、そこから生み出されるさまざまな食文化や、地域で伝承されてきた芸能や祭事は水と土の宝物といえます。

本芸術祭は、水と土によって育まれてきた新潟市の成り立ちや暮らし文化など、その独自性に着目することで、持続可能な社会を展望できる価値観を見出していこうとするものです。あわせて新潟市民一人ひとりが郷土に誇りと愛着を持ち、それぞれが主体となって地域の魅力を内外へ発信していく新たな市民力の創造を目指すものです。

3回目となる今回は、新潟市のアイデンティティである水と土の象徴「潟」に焦点を当てた取り組みとします。新潟市内には、現在15を超える潟が存在していますが、その中でも「鳥屋野潟」、「福島潟」、「佐潟」、「上堰潟」の4つの潟を芸術祭のメインフィールドとしてプロジェクトを展開していきます。かつて潟は、里山のように人々の生活と密接な関係で結ばれており、里潟と呼べる存在でした。潟に出向き、潟そのものを体感することで、先人から受け継いだ生命の感覚を呼び覚ましたいと思えます。

世界のどこにもない、新潟市だけが持つ歴史と文化、そして自然。本芸術祭は、その魅力をアーティストはじめ、多様な担い手とともに引き出していきます。加えて文化庁による「東アジア文化都市」2015年の国内開催候補都市に本市が選ばれたことを踏まえ、日本、中国、韓国など東アジア域内の文化交流を積極的に図っていこうとするものです。

## II 開催概要

---

### 1 名称

水と土の芸術祭 2015

### 2 基本理念

私たちはどこから来て、どこへ行くのか

～ 新潟の水と土から、過去と現在を見つめ、未来を考える（案）～

### 3 目的

「水と土の文化創造都市にいがた」の前進

2015年は、北陸新幹線の延伸開業や農業特区での具体的な事業化の推進、食文化によるユネスコ創造都市ネットワークの加盟を通じた地域と世界への貢献など、新潟市の発展にとって大きな意味を持つ、特別な年となる。

また、東アジア文化都市の国内候補都市として選定され、本市ならではの文化芸術イベント等の実施により東アジア域内の相互理解と連帯感を形成し、東アジアにおける多様な文化の国際発信力を高めていくことを目指している。

そのような中で、文化芸術が有する創造性を活かした新たな市民力の進展と、「潟」や「食」、「おどり文化」など「新潟らしさ」の磨き上げと発信により、本市の存在感を高めるとともに、魅力にあふれた、活気あるまちづくりを進める。

### 4 主催

水と土の芸術祭 2015 実行委員会

- |                   |                                               |
|-------------------|-----------------------------------------------|
| □実行委員長            | 篠田 昭 (新潟市長)                                   |
| □副実行委員長           | 本間 智美 (市民サポーターズ会議)                            |
| □副実行委員長           | 福田 勝之 (新潟商工会議所会頭)                             |
| □副実行委員長           | 萬歳 章 (新潟県農業協同組合中央会会長)                         |
| □監事               | 今井 幹文 (新潟経済同友会代表幹事)                           |
| □監事               | 平塚 幸雄 (中小企業診断士)                               |
| □参与               | 大熊 孝 (新潟大学名誉教授/新潟市潟環境研究所所長/NPO 法人新潟水辺の会代表)    |
| □アドバイザー           | 加藤 種男 (公益財団法人企業メセナ協議会専務理事・代表理事)               |
| □総合ディレクター         | 小川 弘幸 (イベントプロデューサー/文化現場代表)                    |
| □アート・ディレクター       | 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部芸術環境講座教授)                      |
| □建築ディレクター         | 曾我部 昌史<br>(建築家・神奈川大学工学部建築学科教授/みかんぐみ共同主宰)      |
| □パフォーマンス・ディレクター   | 金森 穰<br>(りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館舞踊部門芸術監督/Noism 芸術監督) |
| □こどもプロジェクト・ディレクター | 戸潤 幸夫 (新潟県立大学人間生活学部子ども学科教授)                   |
| □シンポジウム・ディレクター    | 大熊 孝 参与兼務                                     |
| □食おもてなしディレクター     | 伊勢 みずほ (フリーアナウンサー)                            |
| □広報ディレクター         | 須田 和博 (株式会社博報堂 シニア・クリエイティブ・ディレクター)            |

### 5 後援 (今後依頼予定)

総務省、経済産業省、環境省、外務省、駐新潟大韓民国総領事館、在新潟ロシア連邦総領事館、中華人民共和国駐新潟総領事館、(社)日本観光振興協会 等

## 6 会 期

2015年（平成27年）7月18日（土）～10月12日（月・祝） 87日間

## 7 会 場

4つの潟及び市内全域

メイン会場：旧二葉中学校

サテライト会場：天寿園、いくとびあ食花

潟 会 場：鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟

## 8 主要事業

- (1) 市民プロジェクト（市民が企画立案し、実行委員会が支援するもの）
- (2) こどもプロジェクト（大学や教育関係者と連携し、企画・運営するもの）
- (3) アートプロジェクト（実行委員会が作家・作品を、公募・招へいするもの）
- (4) シンポジウム

## 9 予 算

270,000千円

### Ⅲ 事業内容

#### 1 市民プロジェクト

市民自らが企画・運営するもので、イベントのみならず、まちづくりや地域活性化に繋がるプロジェクトを支援する。これにより、市民や地域が主体となって関わるができる、参加性の高い芸術祭とする。

(1) 対象事業（下記のア～エのいずれにも該当するもの）

ア 平成 27 年 7 月 18 日（土）～平成 27 年 10 月 12 日（月・祝）に、新潟市内で開催し、地域住民が参画するイベント等で、下記の(ア)から(オ)のいずれかに該当するもの。ただし、この期間より前に実施するもので、特に芸術祭開催の機運醸成等に繋がると認められる場合は、この限りではない。

(ア)「水と土」の歴史・文化などを紹介し、「水と土の新潟市」の文化振興に資するもの

(イ)「水と土」に関わるアートを活用して地域の賑わいを創出するもの

(ウ)新潟らしさを表す「潟」、「食」、「おどり」等の魅力を発信するもの

(エ)中国・韓国をはじめとする東アジアの文化交流に資するもの

(オ)東日本大震災による被災者・避難者等を支援するもの（新潟市外で行うものも可）

イ 平成 27 年 2 月末頃の採択決定を受け、平成 27 年 4 月 1 日までに開催日時、場所、内容を確定できるものであること。

ウ 不特定多数の集客、参加が見込まれるもので、非営利であること。

（特定の住民の方のみが参加するもの、または販売等の収益事業を主目的としたものは不可）

エ 政治、宗教などに関する活動や、公の秩序または善良の風俗に反するものでないこと。

(2) 実施件数

100 件程度

(3) 助成額

事業にかかる助成対象経費の 10 分の 10 で、1 事業につき上限 50 万円

※過去に水と土の芸術祭におけるアートプロジェクトに参加した作家を招へいし、実施する事業については、上限を超えて助成する場合があるため、応相談とする。

(4) 対象地域

市内全域（東日本大震災に対する支援を行うものについては、この限りではない）

(5) 実施主体

市民グループ、地域、団体、学校、事業所・企業 など

(6) スケジュール

2014 年 11 月 18 日：募集開始

2015 年 1 月 16 日：応募締切

2 月 末頃：結果通知

(7) 採択方法

一般公募により募集し、実行委員会で採択する。

#### (8) 採択要件

- 芸術祭の趣旨を理解し、独創性のある魅力的なイベント等であるもの
- 事業主体は市民グループ、地域、団体、事業所・企業等で、自主的に企画立案され実施するもの
- 芸術祭に関する情報発信や、地域の魅力の再発見、再構築、そしてその発信に寄与するもの

#### (9) 助成対象経費等

事業に直接要するもので、必要最低限の経費を対象とする。ただし次の経費を除く。

- 事務所等を維持管理するための経費
- 食糧費（健康管理上、必要なものなど実行委員会が認めるものは除く）
- 実施団体の構成員に対する謝礼等の人件費
- 単価3万円を超える物品（当該物品がないと事業を実施できない場合は応相談）
- その他、事業に直接関係ないと実行委員会が認める経費

#### (10) 事業例

まちあるき、伝統芸能、音楽、演劇、アート、映像、パフォーマンス、ワークショップ  
空き家・空き店舗を活用したもの、文化交流イベントなど

## 2 こどもプロジェクト

過去の芸術祭において、子どもたちの参加性が高く、大変好評であった「こどもプロジェクト」を新たな柱の一つとして実施する。

多くの子どもたちが参加するプログラムとして、本芸術祭の基本理念や地域の歴史・文化への理解を深め、芸術の面白さ、楽しさ、すばらしさも体感し満喫する場を提供する。

従来让生活、学校や課外活動等においては体験できないダイナミックな活動をめざし、子どもの個性と創造性、心豊かな人間性を育む。

#### (1) 実施体制

新潟市教育委員会、下越美術教育研究会、下越音楽教育研究会、新潟市小学校教育研究協議会等の推薦により、企画・実施を行うコーディネーターの教育職員を選任し、各プログラムの具体的な企画・実施を進める。

また、新潟大学や新潟県立大学、市民団体などからも協力してもらい、様々なプログラムを実施する。

#### (2) 実施概要

##### ア 実施会場

こどもプロジェクトはこども創造センターを拠点として活動し、様々なワークショップ等を行う。さらにワークショップで作った作品は、展示することで、多くの子どもや保護者から鑑賞してもらおう。

また、作家等が小中学校へ出張するワークショップも行う。

## イ ワークショップの充実

作家・舞踊家・音楽家・食の専門家・市民団体等によるワークショップを積極的に開催する。アートだけでなく「潟」、「食」、「おどり」といったワークショップを通して次世代を担う子どもたちに新潟の魅力を再発見してもらう。週末を中心に実施することで参加性を高め、市民に開かれた芸術祭を実現する。

概 要	講 師
【こどもアートワークショップ】※ 創造的表現の感動・喜びを体験する	アート作家
【こどもダンスワークショップ】※ からだを使った創造表現の楽しさを体験	舞踊家
【こども音楽ワークショップ】※ 音（音楽）を使った創造表現の楽しさを体験	音楽家
【大学スペシャルワークショップ】 大学生（研究室）の企画実施で、創造の感動・喜びを体験する。	新潟大学、新潟県立大学
【アートNPOワークショップ】 アートに関わる団体の企画・実施によるワークショップ	NPO/市民団体
【こどもの潟食】 地元食材や新潟の郷土料理をもとに、創造的にアレンジした料理を体験する料理教室	食の専門家
【市民講師ワークショップ】 潟に関連する工作等の制作体験	市民団体等

※【こどもアートワークショップ】【こどもダンスワークショップ】【こども音楽ワークショップ】は、小中学校へ出張してのワークショップも開催する。

## ウ 被災地との関わり「みずつつ合宿」

「食育」「潟食」をテーマに、子どもを対象として、市内の食関係施設や潟等をめぐり、農業体験や潟での食を体験する夏休みツアー。芸術祭作品も一部鑑賞する予定。

東日本大震災の被災地の子どもたちを招待し、新潟の子どもたちと交流する機会とする。



## 3 アートプロジェクト

深い地域性と高い芸術性を持ち、新潟の水と土の象徴である「潟」にも光を当てながら、アートプロジェクトを実施する。アートプロジェクトは、制作から展示まで、市民や地域が様々な関わりができる参加性の高いものとし、また、多様な人が楽しめ、大きな集客力が期待できるものとする。造形物だけでなく、ダンスなどのパフォーマンス、ワークショップなども実施し、過去の芸術祭で設置した作品についても、活用を図るものとする。

### 3-1 アート展示

#### (1) 作品選定

公募と招へいにより作家・作品を選定する。選定は、ディレクターが行う。

作家・パフォーマー及び作品の選定にあたっては、水と土の芸術祭2015の趣旨を理解したうえで、新潟市の歴史・文化・自然等を感じられたり、国内外から注目を集められたり、また、来場者が楽しんだり考えたりできる作品で、制作等のプロセスにおいて参加性の高いものを優先的に選定するものとする。

会期前に完成する作品だけではなく、会期中に進行するプロジェクト等、そのプロセスに市民や来場者が参加できる作品も検討する。また、地元作家の参加を促すため、市内美術団体やギャラリー、大学・専門学校等に対し、作品公募の周知を徹底する。

#### (2) 作品数

30 作品程度（新作 15～20 作品程度、再展示 5 作品、継続展示 8 作品）

#### (3) 制作

市民や地域、学校との協働で取り組む。プロジェクトによっては企業、事業所、団体等との共催で行う。また、アート制作のスポンサーを募る。

#### (4) 新規の作品について

##### ア メイン会場アート

- メイン会場に置かれるアート作品。
- 旧二葉中学校の教室等屋内あるいは一部屋外に置かれるアート作品。
- 潟やその周辺地域などと内容的なつながりを持ち、メッセージを伝えるアート作品。
- 潟ができる原因となった砂丘の上に立つ会場で、潟を意識させ、潟へと誘うアート作品。

##### イ 潟アート

- 一つの潟を、その景観をそのままに、一つの巨大作品に昇華させる（潟そのもの=作品）。
- 潟の自然環境に配慮した中で、アート要素を広くクリエイティブに埋め込み、潟全体を作品転換。
- 潟へ視点や意識を向けさせる仕掛けとして機能するアートとする。
- 市民の参加によってメッセージの共有を促進。
- 設置予定箇所は鳥屋野潟・福島潟・佐潟・上堰潟とする。

ウ シンボルアート

- 街なかの人通りが多い場所に、シンボリックな巨大オブジェを設置。
- 夜間のライトアップも行えるものとする。
- 緊急時に撤去可能な構造とし、展示中は周辺環境の良好な維持管理に努め、終了後は撤去し原型復旧する。

エ 公募作品

公募により4作品程度を募集する。

2014年10月8日：募集開始

2015年1月15日：応募締切

1月下旬：結果発表

(5) 過去作品の再展示

ア 再展示作品（第1回芸術祭で制作され、保管管理している作品）

可能な限り再展示を行い、その活用を図る。

イ 継続展示作品（第1回芸術祭で制作され、現在も展示されている屋外作品）

補修やメンテナンスを行い展示する。

(6) 作品一覧（予定）

展示会場	概要
メイン会場 旧二葉中学校 (中央区)	インスタレーション 7作品
	再展示作品「新潟市環境資源目録」 (作者：磯辺行久)
	再展示作品「はがしたての地球-土壌モノリス」 (作者：チーム・モノリス)
	再展示作品「L I F E w o r k s @ N i i g a t a」 (作者：酒百宏一)
鳥屋野潟 (中央区)	潟アート作品 1作品
福島潟 (北区)	潟アート作品 1作品
佐潟 (西区)	潟アート作品 1作品
上堰潟 (西蒲区)	潟アート作品 1作品
市中心部 (中央区)	シンボルアート 1作品
ほか	公募作品 4作品
	移動カフェ 1作品
	プロジェクト作品 2作品
天寿園 (中央区)	再展示作品「つぎつぎきんつぎ」 (作者：岸本真之)

篠原幸三郎家住宅 (西蒲区)	再展示作品「Shinohara's House」 (作者：アン・グラハム)
信濃川やすらぎ提 (中央区)	継続展示作品「THE HEART OF TREES」 (作者：ジャウマ・プレンサ)
旧栗ノ木排水機場(東区)	継続展示作品「栗ノ木排水機場は近代農業土木の原点となった。」 (作者：磯辺行久)
新津美術館・前庭 (秋葉区)	継続展示作品「水の声—Water Whisper」 (作者：高田洋一)
秋葉公園 (秋葉区)	継続展示作品「Untitled 09-01」 (作者：前田哲明)
上堰瀉公園 (西蒲区)	継続展示作品「海抜ゼロ」 (作者：土屋公雄APT 田原唯之+木村恒介)
西海岸公園 (中央区)	継続展示作品「おひるねハウス」 (作者：南川祐輝)
関分記念公園 (中央区)	継続展示作品「心園の渡り」 (作者：管懷賓)
角田浜 (西蒲区)	継続展示作品「ヒエログリフ」 (作者：浅葉克己)

## 3-2 パフォーマンス

新潟には、過去から現代にかけて、地域住民が主体となった「おどり文化」が育まれてきた。また、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館にはNoismが日本で唯一の公立劇場専属舞踊団として所属し、国内外で活躍している。

こうした新潟の「おどり文化」を将来に受け継ぐべく、「他に類を見ないプログラム」「継続可能な事業」「Made in 新潟」を実現する、公演や人材育成など様々なプログラムを展開していく。新潟から世界一流の文化を発信するNoismをきっかけにして、新潟の環境が育んできたおどりのDNAを顕在化させ、「おどり文化」の更なる成熟を目指していく。

### (1) 上演プログラム

- ア Noism0 新作公演
- イ Noism1 水と土の芸術祭スペシャル公演
- ウ 伝統楽器「樽砦」とNoism2のコラボレーション公演
- エ Noism1メンバー振付企画

### (2) サマースクール

Noismメンバーを講師に迎え、舞踊家の育成と市民の創造活動を支援することを目指したサマースクールを実施する。

### (3) 対談企画

パフォーマンス・ディレクターの金森穰とゲストによる対談企画の水と土の芸術祭スペシャルを実施。

### (4) リーディングカフェ

Noism0メンバーの役者による戯曲朗読会。

(5) サテライトショップ

パフォーマンス部門のチケットやNoism関連の書籍・DVD、グッズ販売。

## 4 シンポジウム

第2回芸術祭では、東日本大震災を踏まえ「自然との共生」をテーマに人間と自然との関係を考えるシンポジウムを開催した。今回の芸術祭でも同テーマを引き継ぐとともに、新潟らしい魅力（潟・食・おどり等）の発信と地域の活性化にも繋がるシンポジウムを開催する。

特に、農業特区での具体的な事業化の推進や、食分野によるユネスコ創造都市ネットワークへの加盟（予定）を受け、まさに「水と土」の新潟の結実であり、貴重な文化でもある「食」に積極的に取り組んでいく。食と「文化」とのかかわり、食と「環境」とのかかわり、食と「農」、「米」など、広く様々な観点から、新潟の「食」に迫る。「食」を話題の契機として、「新潟」の本質に迫り、その象徴である「潟」に想いを馳せるシンポジウムを開催する。

(1) テーマ 「自然との共生」

サブテーマ 「水と土」と「食」 そして潟へ

(2) 実施概要

ア プレシンポジウム 第1回

- タイトル 自然との共生 —「水と土」と「食」そして潟へ
- 概要 新潟の地元の郷土料理や地元食材を考え、その背景となる水と土の環境にまで考えを及ぼせる。「食」に深い見識を持つ京都の料亭の料理人を迎え、食文化への理解を深め、背景にある「農」「環境」そして「潟」について理解する。
- 開催 2014年9月29日（月） 午後6時～午後7時45分
- 会場 りゅーとぴあ能楽堂
- 出演 <基調講演「日本料理の素敵な世界」>京料理木乃婦 料理長 高橋 拓児氏  
<トーク「食と環境」>

パネリスト

高橋 拓児氏 （京料理木乃婦 料理長）

諸橋 弥須衛氏 （諸橋弥次郎農園 当主）

佐藤 智香子氏 （料理教室「waioli kitchen（ワイオリキッチン）」主催、  
野菜ソムリエ）

コーディネーター：鈴木 聖二氏 （新潟日報社 取締役特任論説編集委員）



## イ プレシンポジウム 第2回

- タイトル 自然との共生 — 命はぐくむ土と水とのグラデーションをみつめて! (仮)
- 概要 「潟」と「人」そしてあらゆるものをつなぐ基盤となる「土」。この「土」を中心に、潟を知り、潟を親しみ、潟を再発見するトーク。  
かつて、「潟」と「人」の関係は密接であり、そうした経験が、様々な創造性・文化を社会にもたらしてきた。その足元に、やはり「土」が在る。このイベントは、「土」がつなぎ育む環境、「土」が生み出す文化について講演的な内容だけでなく、詩の朗読なども含め、多様な観点から迫り、新潟の潟に迫るものである。
- 開催 2015年2月11日(水・祝) 午後2時～午後5時(予定)
- 会場 新潟市民プラザ(予定)
- 出演 <第一部 基調講演> 加藤登紀子氏  
<第二部 パネルディスカッション『「里潟」～潟と人について』>  
パネリスト  
吉川 夏樹氏(新潟大学 農学部 生産環境科学科 准教授)  
志賀 隆氏(新潟大学 教育学部 自然情報講座 准教授)  
コーディネーター: 大熊 孝氏  
<第三部 新潟・潟へのメッセージ「潟から、あなたへ」(仮)>  
朗読: 加藤 登紀子氏、朗読: 国見 修二氏(予定)  
※進行: 遠藤 麻理氏(FM PORTナビゲーター)
- ほか イベントに先駆け「水と土の芸術祭2015」の概要紹介を行う。

## ウ シンポジウム 第1回

- タイトル 表現と保全のはざま(仮)
- 概要 芸術祭招へい作家・料理人・環境計画家らが「新潟の環境」を軸にトークを展開。環境を活かしてそれぞれの表現をすることと、環境を保全するということのはざまにある課題を顕在化し、今後の環境における「表現」のあり方を考える。
- 内容 パネル形式トークイベント
- 開催 2015年7月下旬(予定) 午後1時30分～午後3時(予定)
- 会場 未定
- 出演 芸術祭招へい作家、参加パフォーマー ほか

## エ シンポジウム 第2回

- タイトル 水と土の地における米(仮)
- 概要 「水と土の地」新潟における米づくりは、持続可能な環境営為からかい離してきた。この現状に警鐘を鳴らし、豊かで健康な「食」を取り戻すための「農」のあり方、「食」の今後のあり方について話し合う。
- 内容 基調講演、パネルディスカッション
- 開催 2015年9月19日(土) 午後1時30分～午後3時(予定)
- 会場 未定
- 出演 <基調講演> 天野 尚氏(予定)  
<パネルディスカッション>  
パネリスト  
天野 尚氏(予定)、宮尾 浩史氏(予定) ほか  
コーディネーター: 伊勢 みずほ氏(予定)

## 5 食・おもてなし

「食・おもてなし」は、地域の方の積極的なおもてなしにより、来場者の満足度を向上させる取り組みであり、地域の活性化や、地域経済に新たな動きが発生していくことの契機となることを目指すものである。多くの地域住民や、経済団体・地元業者等の参加があり、地域に新たな刺激がもたらされ、創造的な課題解決の動きが発生することを求めたい。ひいては閉幕後にこれらの効果が波及していくことを目指したい。

今回芸術祭においては「潟」や「食」に着目し、これに地域・農業・観光の観点をもって、取り組むものとする。

### (1) カフェ

メイン会場や各潟において、カフェを展開する。水と土の「出会い」をテーマにしたメニューを提供する。

#### ア 潟るカフェ 購買部（仮称）

メイン会場において、セルフサービス形式の DELI カフェを設置。館内の指定休憩スペースでの飲食や、軽食を購入し「潟」へ行くことも可能とする。パッケージには広報ロゴを入れたもので提供し、購入者がメディア化するように工夫する。

#### イ 潟るカフェ（ダイニングイベント）（仮称）

移動カフェが各潟を巡り、テントや仮設テーブル等で設置する仮設カフェを展開する。来場者は各地域の生産者や住民と交流したり、市内各地域の食など様々な違いを認識し合う。「料理」をただ「食べる」のではなく、その背景にある歴史や人との出会いの機会を創出する。

### (2) 地域のおもてなし

「潟」は素晴らしい自然、素晴らしい景観に溢れている。自然と調和したアートによってより多くの方々に注目される機会を活かし、地域住民の自主的な企画で、お客様への「おもてなし」を展開する。舟や食、神楽など地域の様々な自主企画によって、人との出会いの喜びを演出し、潟の背景にある歴史や文化などのストーリーへの興味を促し、多くの方々の満足度の向上に繋げる。

### (3) 向日葵プロジェクト

潟の近くに、東日本大震災の被災地(福島や南三陸町)とつながりのある向日葵の種を植えて、芸術祭のお客様を迎える。潟の周辺で展開するプロジェクトで、単に向日葵を見るのではなく、その背景にある人と人、地域同士のつながりを大切にする。

### (4) 商品企画（グッズ）

芸術祭に来場されたお客様から、関連グッズを入手・購入することで満足度をより一層高めていただき、かつ、印象を深めていただく。そのためのグッズの開発・選定やパッケージ等を行う。

## 6 その他事業

新潟市の歴史・文化・自然・食等を発信する事業や、オープニング・クロージングイベント等、実行委員会が主催して行う。

- |                |                  |       |
|----------------|------------------|-------|
| ○ 前夜祭          | 2015年7月17日（金）    | 会場未定  |
| ○ オープニング       | 2015年7月18日（土）    | メイン会場 |
| ○ クロージング・記念公演等 | 2015年10月12日（月・祝） | 市民プラザ |

## 7 市内連携事業

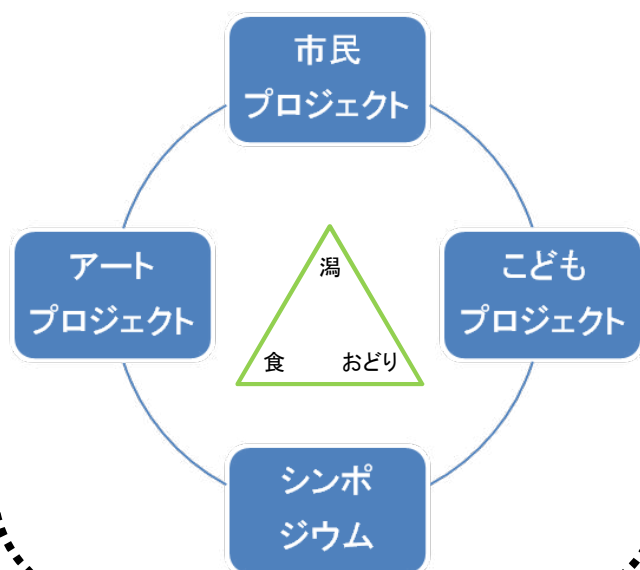
市内にある美術館・博物館等の数多くの文化施設のほか、市民団体、商店街、農業団体、事業所・企業と連携し、関連の企画展や公演、イベントを開催していただく。芸術祭のホームページやチラシ等による広報の連携や、一体的な情報発信を行うとともに観覧料の減免などを通じ、相乗効果を図り、芸術祭全体の盛り上げにつなげる。

## 8 事業全体像

### 水と土の芸術祭 2015

#### 本体事業

市民・地域・実行委員会主体



#### 市内連携事業

文化施設、市民団体等主体

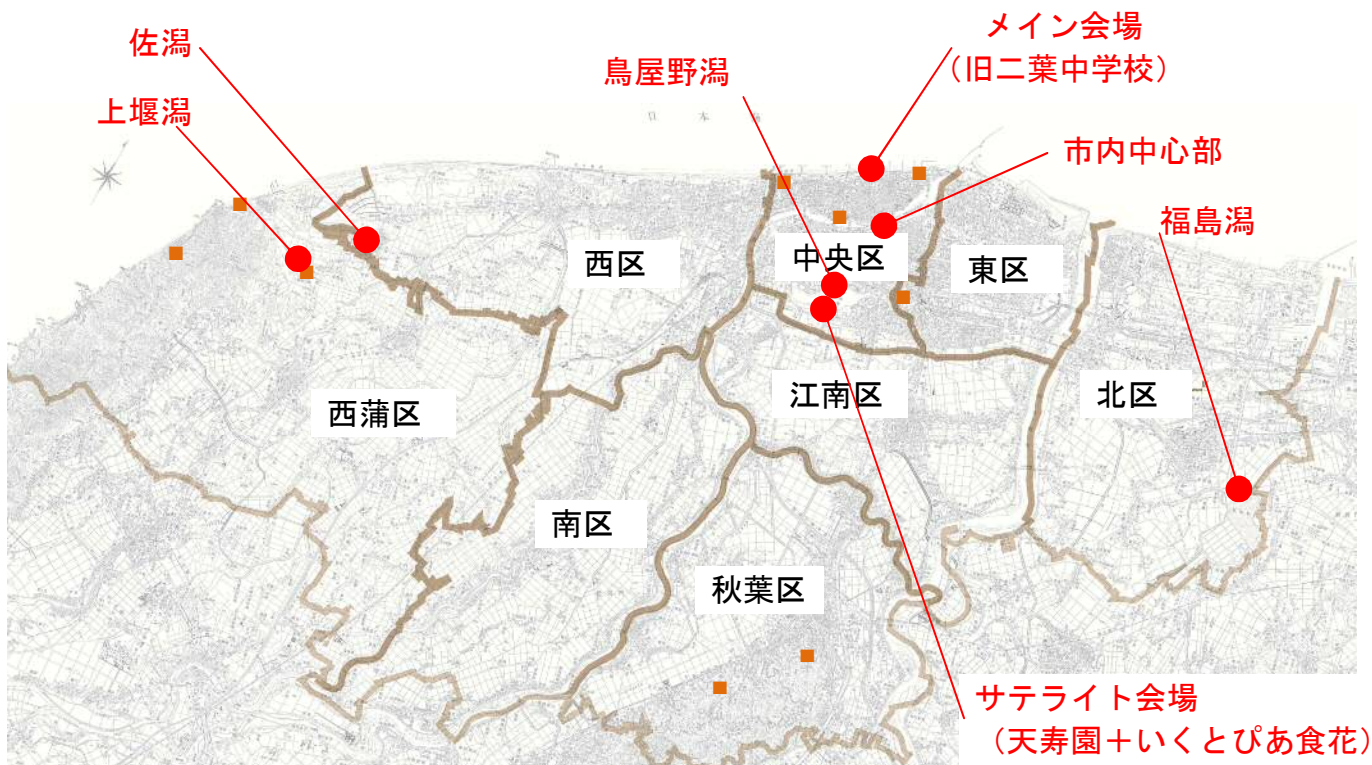
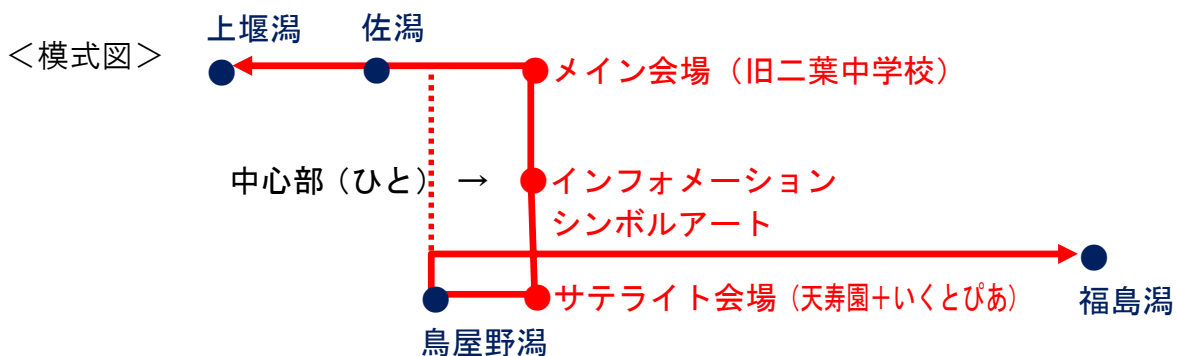
文化施設  
市民団体等  
による事業

## IV 建築と空間構成

### (1) 芸術祭の空間構成

市内中心部に、芸術祭インフォメーションの拠点と芸術祭のシンボルを設置することで、多くの人を惹きつけ、芸術祭の開催を印象づけ、メイン会場と潟会場へと誘う。

- メイン会場・サテライト会場を以下2箇所に設ける。
  - メイン会場 ⇒ 旧二葉中学校（主としてアートの拠点）
  - サテライト会場 ⇒ 天寿園およびいくとぴあ食花（主として子ども関係の拠点）
- メイン会場・サテライト会場から、主として以下の経路から潟会場へと導くよう構成
  - メイン会場 ⇒ 旧二葉中学校 → 佐潟 → 上堰潟
  - サテライト会場 ⇒ 天寿園+いくとぴあ食花 → 鳥屋野潟 → 福島潟



この地図は、新潟市の承認を得て、新潟市発行の5万分の1地形図を複製したものである。

(承認番号) 平26 新都第494号の2



## (2) メイン会場・サテライト会場

4つの潟（鳥屋野潟、福島潟、佐潟、上堰潟）に来客を導くための起点とし、会場は潟から離れているが、内容的に潟とつながり連動させる。

### ア メイン会場旧二葉中学校の内容

#### <お客様向け機能>

インフォメーションブース、カフェ・休憩室、ミュージアムショップ、保健室（AEDあり）、授乳室

#### <作品展示>

潟の紹介展示（再展示アート含む）、作品展示（インスタレーション）、屋外アートの紹介ドキュメント展示、制作スペース（雑用スペース）、校庭内に作品展示（可能性有）

#### <事務機能>

事務室（貴重品保管庫）、倉庫、スタッフ休憩室 など

#### <ほか>

駐車場、大型バス切り返しスペース、緊急車両の停車スペース、障がい者等のための駐車場、大型バス待機場

### イ サテライト会場天寿園及びいくとぴあ食花の内容

#### <天寿園>

簡易インフォメーションブース

こどもプロジェクトワークショップ成果物展示（休憩室）

潟写真展示（瞑想館もしくは貴賓室）

再展示作品展示（岸本真之／茶室）

#### <いくとぴあ食花>

こどもプロジェクト（こども創造センター：ワークショップ会場）

こどもプロジェクト（食育・花育センター：料理教室会場）

## (3) 屋外掲示物等

### ア 看板類

- 作品解説版
- 歩行者用誘導案内板
- 車両用誘導案内板

### イ のぼり

- 「水と土の芸術祭 2015」の目印となるのぼり。
- 盛夏から秋にかけての使用であるため、すべての季節に対応できるようデザイン検討。
- デザインイメージは広報C I計画に沿う。

### ウ バナー等

- 新潟駅内、街なかの主要箇所、メイン会場、各会場、各会場への交通拠点（バス停等）、移動物等に、目印となる掲示物を設置する。
- 芸術祭開催を多くの人に印象付けるとともに、来場者の円滑な移動に寄与する。
- 設置は広報C I計画とも連動して、計画的に行う。

## (4) インフォメーションブース

<設置箇所> 新潟市中心部、メイン会場、ビュー福島潟、いくとぴあ食花 等

## V 二次交通・ツアー

---

### 1 基本方針

- (1) 来場者の観賞における交通利便性の確保に留意する。特に、新幹線、飛行機等で新潟市を訪れたお客様が、可能な限り作品巡りができるよう、二次交通を充実させる。
- (2) また、芸術祭をきっかけとした多様な人と人との出会いを大切にする。特に、東日本大震災後、変化し続ける社会情勢を受け、被災地との交流も意識する。

### 2 実施概要

#### (1) 食とアート・バスツアー

新潟の「食と農」、そして「潟とアート」をめぐるツアーバスを運行する。

#### (2) メイン会場往復シャトルバスの運行

<古町～メイン会場（旧二葉中学校）>

新潟駅から古町までは公共交通機関の利用により容易に到達できる。古町から、新潟市美術館・メイン会場（旧二葉中学校）をつなぎ往復するシャトルバスによって、来客の利便性を確保する。

#### (3) 潟会場・シャトルバスの運行

<古町～佐潟～上堰潟、古町～福島潟、古町～鳥屋野潟>

4つの「潟」は、新潟駅から遠隔地にあり、公共交通機関の便が良好ではない立地にあるため、シャトルバスを運行する。

#### (4) 旅行エージェントによるツアー創出

<通常営業分>

- 旅行エージェントによる「水と土の芸術祭 2015」を活用したツアーパッケージの創出を促進し「アート・バスツアー」「おもてなし」の情報を提供（活用）する。併せて「マリニピア日本海」「いくとびあ食花」「岩室温泉」など、市内の観光資源の活用も促進する。
- 「大地の芸術祭」「佐渡」「鶴岡」「会津若松」など周辺観光地域も含めたツアー化も促進する

<ビジット・ジャパン・キャンペーン>

ビジット・ジャパン・キャンペーンに参加し、主として中国・韓国等、東アジア各国からの海外誘客を目指す。

- (5) 近距離輸送についてはレンタサイクルなど、環境に配慮した移動手段を活用する。

### 3 その他

- (1) 路線バス等の既存の交通手段を最大限活用し、二次交通の情報提供を行う。
- (2) 交通手段だけではなく、宿泊施設の情報提供などを行い、来場者にホスピタリティ溢れる情報提供を行う。
- (3) 各会場及び会場付近の利用可能駐車場情報をリーフレットやホームページ等で情報提供を行い、混乱のないよう配慮する。

## VI 広報

### 1 基本方針

- (1) 水と土の芸術祭 2015 の良好なイメージづくりを計画的に展開する。
- (2) 全国及び新潟県内における雑誌等での広告デザイン・掲載及びチラシ・ポスターのデザイン・制作・設置を軸に展開する。
- (3) ガイドブック等の制作、WebサイトやSNSによる情報発信によって、より広く深い情報浸透を展開する。
- (4) 全国及び新潟県内において、様々なパブリシティを展開する。特に、全国向けのパブリシティにおいては、一般層に「水と土の芸術祭 2015」が浸透し、広く話題が広がっていくような仕掛けを展開する。
- (5) 2014年10月から早期広報を開始し、徐々に情報浸透を図りつつ、2015年2月以降に本格的な情報発信へ移行していく。
- (6) 広報イメージを屋外掲示物類とも共通のものとし、イベント期間中、市全体としての水と土の芸術祭 2015 の統一したイメージづくりを展開する。

### 2 実施体制

広報業務全体を株式会社新潟博報堂に業務委託し、広報ディレクターのもと戦略的・効果的な広報推進を図る。

### 3 広報活動

水と土、場所とアーティスト、旅行者と環境、旅行者と市民などそれぞれの「出会い」をテーマにシンボル化（ロゴマーク）し、多面的に展開する。また、テレビや新聞などの既存メディアを通じたPRだけでなく、ソーシャルメディアも効果的に活用し、クチコミを誘う広まりやすい仕掛けとしていく。

#### (1) 水と土の芸術祭 2015 ロゴマーク

「水と土」の「出会い」をシンプルに表現している。

水と土の「交わり」と「共生」への想いを、2つの色面とそれをつなぐ「グラデーション」に込めている。また、正方形の形は「田」の字がシルエットとなってデザインされている。



水 と 土 の  
芸 術 祭

Water and Land  
Niigata Art Festival 2015

ロゴデザイン/細川剛

アートディレクターとして、昨年のカンヌ国際広告祭でデザイン部門ゴールドを受賞した他、佐藤可士和氏とのヤンマー再生や、ワコール・日産・キリンなど一流企業を多数手がける博報堂を代表するアートディレクター。

(2) 広告物の制作

- アート作品公募チラシ・早期広報用チラシ【2014年10月2日発行】
- 正式チラシ（マップ付）
- 子ども向けチラシ
- ポスター
- 有料広告紙面

(3) 書籍類の編集・デザイン

ア ガイドブックの制作（有料販売）

- 芸術祭内容（作品、作家紹介、イベント、出演者紹介、スケジュール等）
- 会場へのアクセス（地図、交通機関、接続、主要な時刻表及び所要時間等）
- 会場案内（会場レイアウトマップ、食の紹介、潟の解説等）
- 切り離しパスポート（スタンプラリー欄、割引サービスチェック欄、有料サービスチェック欄）

イ 図録の制作（有料販売）

- 会期中から販売
- 作品写真及び潟風景写真等を中心にした図録

(4) パブリシティ活動

- メディアや美術関係者を集めた記者発表会やPRイベントへの出展を行う。
- 新聞、テレビ、ラジオなどのマスコミや、美術・旅行雑誌、タウン誌、フリーペーパー、Webニュースなどのメディアに、情報を掲載したプレスリリースや写真データを発信し、記事としての掲載を促す。
- マスコミや美術関係者を招へいして、開幕に合わせてプレスツアーを実施する。

(5) Web制作

- 早期暫定Web制作・運営管理【2014年10月2日公開】
- 本格Web制作・運営管理
- SNS活用

(6) 全国広告掲載

- アートとの親和性が高く、旅や休日ライフの提案につながる雑誌に掲載する。
- 有料媒体とフリーマガジンを組み合わせることでリーチ（接触）を広げる。

(7) 県内広告掲載

- タウン誌3誌以上
- メディア（ラジオ）と連携したフリーペーパー及び、宅配型フリーペーパーを活用する。

(8) 県内テレビCM

- テレビのデータ放送を活用し、24時間オンデマンドで最新情報を発信する。また、データ放送と連動したCMを放送し、事業告知を実施する。
- 純広告スポットCMを放映

(9) 屋外掲示物企画・デザイン監修

- 屋外シンボル掲示物企画・調整・デザイン
- バナー等企画・調整・デザイン
- 誘導案内看板デザイン
- 作品解説看板等デザイン
- 芸術祭のぼりデザイン ほか

(10) その他

- その他のチラシや芸術祭グッズパッケージのデザイン監修等

4 記録について

実行委員会では、公式記録のため「公式カメラマン」と契約し芸術祭を記録する。

5 広報等スケジュール

日 程	内 容
2014年 9月	ロゴマーク作成
2015年 4月	チラシ・ポスター・マップ発送・Webサイト本格運用
2015年 5月	全国広告、新聞広告掲載・地方TV・ラジオ・CM (5月以降随時)
2015年 6月	ガイドブック販売
2015年 9月	図録販売

※ その他、必要に応じて随時、広報展開を行う。

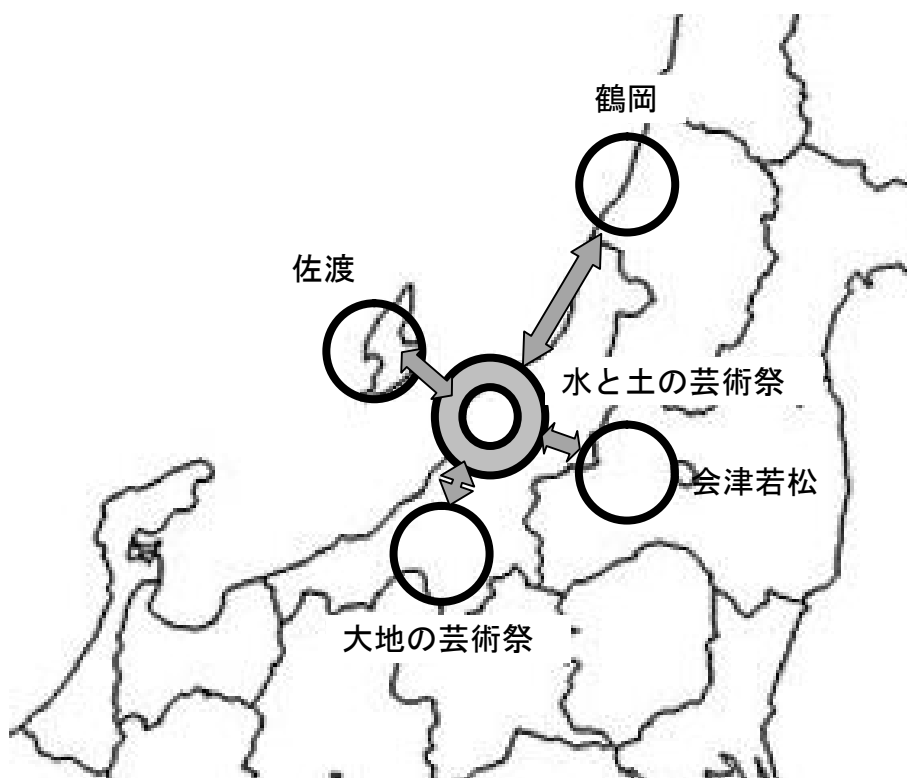
## VII 広域連携の取り組み

---

佐渡や鶴岡、会津若松など、既に広域観光として提携のある市町村と相互に協力し、誘客を図る。さらに、新潟県内の観光資源を最大限活用し、それらと連携することで、さらなる誘客と広域連携を促進させる。

特に、2015年に開催される第6回大地の芸術祭は、同時期に県内で開催される芸術祭であることから連携を図り、相互に人が行き来する仕組みづくりに取り組む。

また、姉妹都市・友好都市や東アジアの都市等との連携に取り組む。



## VIII 料金設定

---

アート作品については観覧料金を徴収しないこととする。ただし、ホールでのパフォーマンス公演などの有料サービスも一部設定するが、ガイドブック（有料販売）の提示による割引観覧を今後検討する。

また、市内の観光交流施設（マリニピア日本海等）や飲食店などと連携した、ガイドブック提示による割引制度についても併せて検討する。

## IX 実施・運営体制

### 1 基本方針

市民主体・地域主導の芸術祭とするため市民の皆様をはじめ、議会、自治協議会等からご意見をいただき可能な限り反映しながら事業を実施する。

### 2 組織

様々な機関・団体から参画いただき実行委員会を組織する。

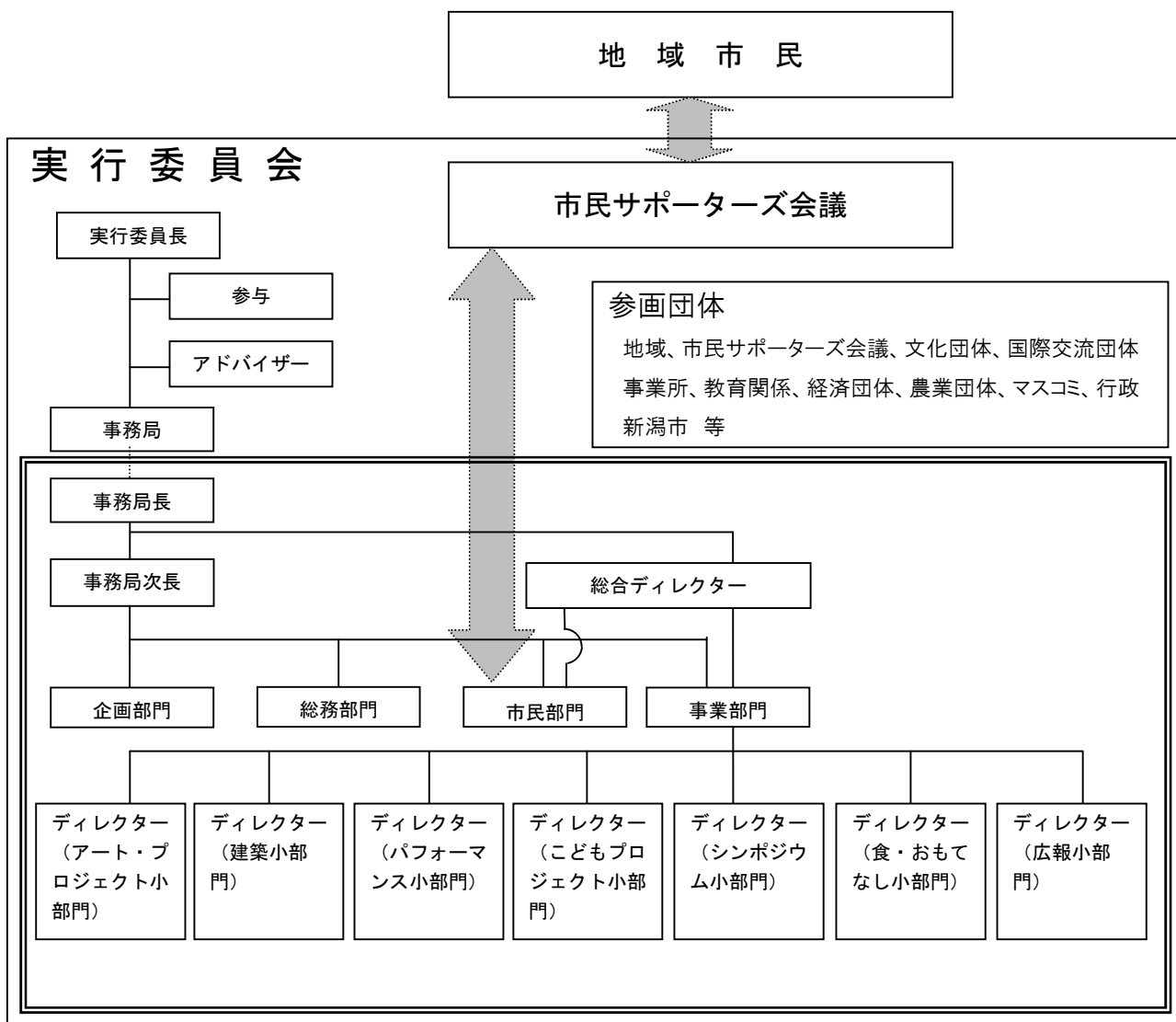
実行委員会には、参与、アドバイザー、総合ディレクター、ディレクターを置く。

事務局は、新潟市水と土の文化推進課が担う。同事務局内に企画・総務・市民・事業部門を設け、特に芸術祭の中核を担う事業部門については、総合ディレクターを配置し、この総合ディレクターの監督のもと、事業ごとにディレクターを置くことにより、個々の事業の一体化とブラッシュアップを図る。

区役所との連携を密にし、各種情報提供や協力依頼を行う。

### 3 市民サポーターズ会議との連携

市民サポーターズ会議の企画・運営等への参画が重要であることから、事業を進めるに当たり、実行委員会の市民部門が窓口となり、強力に連携する。



## 水と土の芸術祭 2015 実行委員会 会則

### (名称)

第1条 本会は、水と土の芸術祭 2015 実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

### (目的)

第2条 実行委員会は、水と土の芸術祭 2015（以下「芸術祭」という。）を円滑に開催するために必要な事項を審議し、実行し総括することを目的とする。

### (事業)

第3条 実行委員会は、第2条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 芸術祭の開催及びこれに関する事業
- (2) その他、第2条に掲げる目的を達成するために必要な事業

### (組織)

第4条 実行委員会は、別表の団体等をもって構成する。

### (役員)

第5条 実行委員会には、次の各号に掲げる役員を置く。

- (1) 実行委員長 1名
- (2) 副実行委員長 若干名
- (3) 監事 2名

### (役員を選任)

第6条 役員は、実行委員会の中から互選により選任する。

2 監事は、実行委員会の外部から選任できるものとする。

### (役員職務)

第7条 実行委員長は、実行委員会を代表し、会務を統括する。

2 副実行委員長は、実行委員長を補佐し、実行委員長が不在のときは、その職務を代行する。

3 監事は、会計及び業務を監査する。

### (会議)

第8条 実行委員会の会議（以下「会議」という。）は、実行委員長が招集し、議長となる。

2 会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 会則の制定及び改廃に関すること。
- (2) 芸術祭の計画及び運営に関すること。
- (3) その他重要な事項に関すること。

3 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

4 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 実行委員長は、必要があると認められるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。

### (参与)

第9条 実行委員会に参与を置くことができる。

2 参与は、芸術祭の基本的な方向性を導引する。

3 参与は、実行委員長が委嘱する。

### (総合ディレクター)

第10条 実行委員会に総合ディレクターを置くことができる。

2 総合ディレクターは、次条に掲げるディレクターを統括する。

3 総合ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

### (ディレクター)

第11条 実行委員会にディレクターを置くことができる。



- 2 ディレクターは、総合ディレクターの指示に従い、専門的知識を活かし、担当する部門の企画・運営を指導・推進する。
- 3 ディレクターは、実行委員長が委嘱する。

(アドバイザー)

第12条 実行委員会にはアドバイザーを置くことができる。

- 2 アドバイザーは、実行委員長の求めに応じ、実行委員会に対して助言を行う。
- 3 アドバイザーは、実行委員長が委嘱する。

(部会)

第13条 実行委員会に部会を置くことができる。

- 2 部会は、それぞれの専門分野等において、事業を推進するものとする。
- 3 前2項に定めるもののほか、部会に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(作品選定会議)

第14条 実行委員会に作品選定会議を置くことができる。

- 2 作品選定会議の運営等に関する事項については、実行委員長が別に定める。

(専決処分)

第15条 実行委員長は、第8条第2項に掲げる事項について、緊急を要するときは、これを専決処分することができるものとする。

- 2 実行委員長は、第1項の規定により専決処分したときには、次の会議でこれを報告しなければならない。

(解散)

第16条 実行委員会は、その決議により解散することができる。

- 2 実行委員会が解散するときに有する残余財産は、新潟市に帰属するものとする。

(事務局)

第17条 実行委員会の事務を処理するため、新潟市観光・国際交流部水と土の文化推進課内に事務局を置く。

- 2 事務局に事務局長を置く。
- 3 前2項に定めるもののほか、事務局に関して必要な事項は、実行委員長が定める。

(会計)

第18条 実行委員会の経費は、負担金、寄附・協賛金、その他の収入をもって、これに充てる。

(会計年度)

第19条 実行委員会の会計年度は、初年度は実行委員会設立の日から平成27年3月31日までとし、次年度以降、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(その他)

第20条 この会則に定めるもののほか、必要な事項については実行委員長がこれを定める。

附 則

この会則は、平成26年4月28日から施行する。

## 水と土の芸術祭2015実行委員会 構成団体等一覧

区分	団体等名称	区分	団体等名称
市民・地域	市民サポーターズ会議	商工・経済団体	(一社)新津青年会議所
	北区		(一社)白根青年会議所
	東区		(一社)にいがた北青年会議所
	中央区	交通関係	東日本旅客鉄道(株)新潟支社
	江南区		新潟交通(株)
	秋葉区	学校・教育関係	新潟大学
	南区		新潟市小学校長会
	西区		新潟市中学校長会
西蒲区	はばたけ21の会		
農業団体	新潟県土地改良事業団体連合会	各種団体	(一社)日本旅行業協会新潟地区会
	亀田郷土地改良区		日本ホテル協会信越支部会新潟市協議会
	西蒲原土地改良区		新潟市旅館協同組合
	豊栄土地改良区		新潟市漆器同業組合
	白根郷土地改良区		(公社)新潟県観光協会
	新津郷土地改良区		(公財)新潟観光コンベンション協会
	木崎濁川土地改良区		(公財)新潟市芸術文化振興財団
	葛塚土地改良区		(公財)新潟市国際交流協会
	新潟県農業協同組合中央会		食の陣実行委員会
	全国農業協同組合連合会新潟県本部		NPO法人まちづくり学校
	新潟みらい農業協同組合		NPO法人新潟水辺の会
	新潟市農業協同組合		NPO法人新潟NPO協会
	豊栄農業協同組合	マスコミ	新潟日报社
	新潟さつき農業協同組合	行政機関	農林水産省北陸農政局
越後中央農業協同組合	国土交通省北陸信越運輸局		
	国土交通省北陸地方整備局 信濃川下流河川事務所		
水産団体	新潟漁業協同組合		国土交通省北陸地方整備局 阿賀野川河川事務所
商工・経済団体	新潟商工会議所		国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所
	亀田商工会議所		国土交通省北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所
	新津商工会議所		新潟県新潟地域振興局
	新潟県商工会連合会		新潟市
	新潟経済同友会		新潟市教育委員会
	新潟市商店街連盟		
	(一社)新潟青年会議所		

計 63団体等

# X スケジュール

	2014年				2015年				2016年	
	1月 ~ 3月	4月 ~ 6月	7月 ~ 9月	10月 ~ 12月	1月 ~ 3月	4月 ~ 6月	7月 ~ 9月	10月 ~ 12月	1月~	
全 体	基本計画案作成	基本計画作成	実施計画作成							
			開催準備							
			市民意見聴取							
		実行委員会設立総会		部会設置 実行委員会総会			実行委員会総会	芸術祭 開催	実績報告 実行委員会総会	
市民プロジェクト			公募・審査				実施			
アートプロジェクト		作品展示候補地調査								
		*公募作家		作品公募	作品審査	作品制作	作品展示			
		*招へい作家	作家交渉・作品制作準備			作品制作	作品展示			
シンポジウム			内容・出演者等の調整・プレシンポジウムの開催				開催			
広 報			ホームページによる情報発信							
			事業周知宣伝(プレスリリース等)							
			印刷物・広報紙・広報テレビ・ラジオによるPR							
						広告宣伝				
						作品制作準備・開催記録、記録編集				

## XI 予算

### 【 収 入 】

(単位：千円)

区 分	平成26年度	平成27年度	計
新潟市負担金	20,000	236,000	256,000
寄附・協賛金	0	4,000	4,000
助成金	0	10,000	10,000
各種販売収入	0	0	0
計	20,000	250,000	270,000

### 【 支 出 】

(単位：千円)

区 分	平成26年度	平成27年度	計
市民プロジェクト	0	45,000	45,000
こどもプロジェクト	0	10,000	10,000
アートプロジェクト	0	85,000	85,000
シンポジウム	900	2,000	2,900
主催イベント	0	4,000	4,000
広報費	3,500	60,000	63,500
運営活動費	15,600	44,000	59,600
計	20,000	250,000	270,000